シリーズ回想
航空幕僚長勤務時の思い出 110

航空幕僚長勤務時の思い出

理事（前航空幕僚長）井筒 俊司

私の2年7カ月の在職時は、コロナ禍でいかに市ヶ谷での仕事を効率的に進めるかが大きな課題でした。

航空幕僚長をはじめ、部隊の指揮官は、現場の視察に赴きます。コロナ禍で緊急事態宣言が出された時は、県などをまたぐ移動が著しく制限され、電車などの公共交通機関の利用も事実上禁止に近い状態でした。しかしながらざずがは航空自衛隊。近隣の基地へ行く時は市ヶ谷からヘリコプターで、遠くの基地へ行く時には市ヶ谷から入間基地まではヘリコプター、そこからは飛行機で行くことができました。柵の中から柵の中への移動であり、視察先の基地では感染対策をしっかりとってくれていましたので、比較的多くの基地を視察することができました。

2 他国の空軍とのつながり

航空幕僚長は約5万人いる航空自衛隊員の責任者です。そのため毎日、いろいろな報告を受けたり、多くの会議に参加したりすることとなりますが、そのような仕事で毎日接する人数は恐らく、40人から50人くらいだと思います。

ある意味、比較的少ない人数の中で毎日の仕事が進むイメージですので「航空自衛隊員5万人の…」と意識することは余りありませんでした。

しかしながら海外に出張し、その国の空軍参謀長と会談をしたり、日本を訪れる空軍参謀長をおもてなししたりする時には、航空自衛隊の代表というプレッシャーを感じました。私が在職中にはドイツ空軍とインド空軍の戦闘機が日本に展開し訓練をするという歴史的な出来事もありました。

就任ほどなくしてインドの出張がありました。夕方到着し、その晩は歓迎のレセプション、翌日は軍人墓地に献花をし、空軍参謀長と会談の後、国防大臣や統合参謀長を表敬、近隣のレーダー部隊を研修し、その日の夕方にはインドを発つという、1日24時間に思い切り予定を詰め込んだスケジュールでした。コロナ禍のさなかでインドへの来訪者が激減していたこともあり、現地で非常に歓待されたことを覚えています。

とある国の空軍参謀長が来日した時には非常に意気投合し、朝はFRIEND（友達）だったのが、昼食時にはBROTHER（兄弟）となり、晩さん会ではFAMILY（家族）と呼び合うようになりました。「家族といってもマフィアの家族じゃないぞ」と冗談を言い合う仲にまでなりました（これを言ってしまうとどこの国か分かってしまいそうですが）。

一方で、NATOの軍事委員会で日本を取り巻く安全保障環境について話をしたら、参加者から質問攻めにあったり、イギリスのエアショーの格式の高い晩さん会では、イギリス空軍参謀長や空軍協会会長などと一緒のメインテーブルとなり「さて、唯一東洋人の日本人は何を話したらいいやら…（英語も自信がないし）」と途方に暮れたりしたこともありました。

夫人同伴で何回か出張した時には、英語が得意ではない妻も苦労しましたが、夫人同士で意気投合し、しっかりと夫人外交をしてくれました。そんなたくましい奥さん方を見て、旦那同士で「旦那は星が4つだけど、夫人はもう一つ多い星5つ」という万国共通のジョークで盛り上がることもありました。

3 おわりに

航空自衛隊はF－35戦闘機をはじめとする航空機、PAC－3ミサイル、24時間365日、日本全域を監視するレーダーなど、いわゆるハイテク装備品の運用をしています。

そしてこれらが能力を発揮するのは、使いこなす人財だいです（組織の財産と呼べる人を「人財」と呼んでいます）。

2020（令和2年）5月には宇宙作戦隊という、日本で初めての宇宙作戦を実施する部隊が航空自衛隊にできましたが、これも優秀で熱意のある人財がいるからこそと痛感しました。

また、航空自衛隊というと、飛行場のある比較的大きな基地を連想される方も多いと思いますが、PAC－3やレーダーの分屯基地の多くは山や島といった僻地にあります。そのような厳しい環境でもしっかり勤務をする彼ら彼女らは、私の誇りでもありました。

装備品も組織も、そこにいる一人一人の各前のある隊員がいるからこそ、きちんと運用される任務が遂行される、人財あっての航空自衛隊ということは、私が繰り返して伝えてきたことです。

大切なご子息ご息女が航空自衛隊に入ることを認めていただき、また励まし続けておられるご両親をはじめ兄弟姉妹の家族の皆さんには心より感謝をいたします。

私は自衛隊家族会本部の理事という役職を仰せつかっており、家族会の活動の活発化などに責任を持つ立場にあります。

一方で息子が航空自衛官であることから、千葉県家族会柏支部の一員でもあります。柏支部の会合に参加をさせていただきましたが、素晴らしい方ばかりで非常に心強く思いました。支部の家族会の絆は強いのですが、ご子息ご息女のほとんどは、柏市はもとより千葉県を離れて勤務していることも事実です。そのようなある種の矛盾がある中で、家族会の役割や会員の皆さん、そしてご子息ご息女の活躍のために自分は何に貢献できるか、今後とも家族会の一員として考えたいと思います。

結びに代えて、私が先輩から頂いた言葉を紹介したいと思います。

「『ありがとう』の反対の言葉を知っているか」とその先輩に聞かれた時、私は「申し訳ありませんか、すみませんでしょうか」と答えました。そうするとその先輩は「違うんだ、『ありがとう』の反対は『当たり前だよ』と諭してくれました。

「有る」ことが「難しい」めったにないことだから有難い、決して当たり前ではないということに、その時気付きました。

家族会の皆さんのご活動、ご子息ご息女のご活躍は決して「当たり前」ではなく「有難い」ことということを改めて肝銘し、筆を置かせていただきます。

ありがとうございました。

空幕長の最終フライト

「自衛隊を動かすメジャーコマンド」①

陸上自衛隊・陸上総隊司令部

災害派遣活動

1 はじめに

陸上総隊は、陸上自衛隊創隊以来の大改革の骨格をなす事業として、平成30年3月27日に新編されました。これにより、統合幕僚監部、自衛艦隊、航空総隊、在日米軍などとの運用に係る調整や事態など、生起時における5個方面隊の運用を陸上総隊司令官が一元的に行うこととなり、陸自中央指揮機能を強化するという陸上防衛態勢の中核を成す体制整備を実現しました。

本稿においては、陸上総隊の活動、取り組みなどの概要を紹介します。

2 陸上総隊の概要

まず「陸上総隊とは何か」を説明します。陸上総隊は、司令部を朝霞駐屯地に置き、第1空挺団、水陸機動団、第1ヘリコプター団、システム通信団、中央情報隊、中央即応連隊、特殊作戦群、電子作戦隊、中央特殊武器防護隊、対特殊武器衛生隊、国際活動教育隊といった唯一無二の機能を有する直轄部隊により編成されています。また、国際任務部隊が編成された場合には、当該部隊を指揮することとなっています。

なかでも、陸上総隊司令部は「陸上防衛作戦（防衛・警備）、災害派遣、国際活動、国家行事支援などの各種任務において、5個方面隊および11個直轄部隊を運用し、統合作戦および日米共同作戦の中核として、わが国の平和と安全に寄与する中央司令部」であり、総務部、情報部、運用部、後方運用部、日米共同部の5部、参事官、報道官、法務官、医務官、監察官の5官、約200人で編成されています。

平素から事態など生起時のシームレスな対応、統合運用や日米共同の実効性を向上させるため、高い即応性をもって日夜勤務に励んでいます。

3 陸上総隊の活動および取り組み

（1）日米共同統合訓練などによる運用の実効性向上

陸上自衛隊がわが国の防衛の任務を果たすためには、平素から各部隊および各隊員が常に高い練度を維持し、さらなる向上を図ることが必須となります。

陸上総隊は、日米共同訓練、陸海空の各自衛隊の連携向上のための統合演習などにより、抑止の実践、対処の実効性の向上に努めています。

具体的には、日米共同統合指揮所演習（KE）、日米共同方面隊指揮所演習（YS）などの指揮所演習により頭脳たる司令部を鍛えるとともに、日米共同統合演習（KS）、自衛隊統合演習（JX）などの実動演習により体となる部隊を鍛えています。

実動演習の一例として「令和5年度第3海兵機動展開部隊との共同訓練」について紹介します。

本訓練は、令和6年2月から3月に長崎県、熊本県、鹿児島県および沖縄県で実施され、陸上自衛隊と日本に駐留する米海兵隊が、それぞれの指揮系統に従い、日米共同の着上陸訓練、陸上戦闘訓練、長距離徒歩機動訓練、救護訓練、監視訓練などを行い、共同対処能力の向上を図ることができました。

（2）災害派遣（統合任務部隊《JTF》としての活動）

災害のうち、その被害規模が特に大きい大規模震災が発生した場合は、防衛大臣の命令により統合任務部隊が組織され、陸上総隊司令官が統合任務部隊指揮官となって陸・海・空自衛隊の各部隊を指揮し対処します。

令和元年台風19号（東日本台風）上陸に伴い、東部方面隊区・東北方面隊区において大規模水害が発生した際、防衛大臣命令により陸上総隊司令官を指揮官とする統合任務部隊が編成され、災害派遣活動（令和元年10月13日～11月8日）を実施しました。

①在スーダン共和国邦人等輸送

令和5年4月20日から28日までの間に実施した本任務においては、航空自衛隊航空支援集団司令官を指揮官とする統合任務部隊が編成され、航空自衛隊C－2輸送機1機により、スーダン共和国から邦人等計45人をジブチ共和国まで輸送し、無事に任務を完遂しました。

陸上総隊として、所要の人員・装備品を差し出し、本任務達成に貢献しました。

②在イスラエル邦人等輸送

令和5年10月20日および11月2日に実施した本任務においては、航空自衛隊C－2輸送機をヨルダンなどで待機させるとともに、航空自衛隊KC－767輸送機による計2回の輸送により、イスラエルから邦人等計129人を本邦まで輸送して無事に任務を完遂しました。

前項の在スーダン共和国邦人等輸送と同様、陸上総隊として所要の人員・装備品を差し出し、本任務達成に貢献しました。

現在も本邦で引き続き任務に即応できるよう待機態勢を維持しています。

③国際活動

令和5年4月20日から28日までの間に実施した本任務においては、航空自衛隊航空支援集団司令官を指揮官とする統合任務部隊が編成され、航空自衛隊C－2輸送機1機により、スーダン共和国から邦人等計45人をジブチ共和国まで輸送し、無事に任務を完遂しました。

陸上総隊として、所要の人員・装備品を差し出し、本任務達成に貢献しました。

（3）国際活動

①在スーダン共和国邦人等輸送

令和5年4月20日から28日までの間に実施した本任務においては、航空自衛隊航空支援集団司令官を指揮官とする統合任務部隊が編成され、航空自衛隊C－2輸送機1機により、スーダン共和国から邦人等計45人をジブチ共和国まで輸送し、無事に任務を完遂しました。

陸上総隊として、所要の人員・装備品を差し出し、本任務達成に貢献しました。

②在イスラエル邦人等輸送

令和5年10月20日および11月2日に実施した本任務においては、航空自衛隊C－2輸送機をヨルダンなどで待機させるとともに、航空自衛隊KC－767輸送機による計2回の輸送により、イスラエルから邦人等計129人を本邦まで輸送して無事に任務を完遂しました。

前項の在スーダン共和国邦人等輸送と同様、陸上総隊として所要の人員・装備品を差し出し、本任務達成に貢献しました。

現在も本邦で引き続き任務に即応できるよう待機態勢を維持しています。

（4）国家的行事支援

これまでに、令和元年6月のG20大阪サミット、令和3年7月の東京オリンピック、令和5年5月の広島サミット、令和5年9月の安倍元総理の国葬など国家的行事を支援しました。

統合幕僚監部と連携し、各方面隊および直轄部隊をもって支援し、行事の成功に寄与しました。

4 最後に

令和6年度末、陸海空自衛隊を一元的に指揮する統合司令部が市ヶ谷に新設されます。陸上総隊は、より強化された統合運用態勢のもと、今まで以上に陸上構成部隊として任務にまい進していきます。

陸上総隊および直轄部隊は、ウェブサイトやSNS（X、FB（フェイスブック）、YouTube）を活用し、同盟・同志国との共同訓練、災害派遣、国際平和協力活動、同盟・同志国の部隊指揮官との交流、駐屯地イベントなどを積極的に国内外へ情報発信し、陸上総隊の活動状況を広く国民や国際社会に理解していただけるよう取り組んでいます。

特に、陸上総隊の唯一無二の機能を有する直轄部隊は、装備品・訓練内容など、希少性が高いのが特徴です。是非、フォローしていただき、最新の陸上総隊の活動状況をご覧いただきたいと思います。

引き続き、陸上総隊へのご理解、ご協力を宜しくお願いします。

陸上総隊司令部X

陸上総隊司令部FB

陸上総隊司令部YouTube

陸上総隊司令部Web

「筆者紹介」
井筒 俊司

・昭和39年生
・千葉県出身
・防衛大学校30期
・職種：操縦
・主要部隊歴等
S51 航空自衛隊入隊
H23 第6航空団司令
H26 防衛監察本部監察官
H28 空幕 人事教育部長
H29 西部航空方面隊司令官
R1 航空総隊司令官
R2 航空幕僚長
R5 退職

美佐の新国防論 159

デュープス

私は元々テレビ番組などを作る仕事をしていましたが、あまりそのことについて皆さんにお伝えすることはなかったので、今回はそんなお話を書いてみたいと思います。

というのは、メディア業界では普通のことは、必ずしも世間一般で知られているわけではないと改めて感じているからです。

例えば、よく言われていたのは、企画を出すにあたり「犬が人に噛みついても企画にならないが、人が犬を噛んだということであれば通るかも」という通説です。

つまり平凡な物語ではなかなか採用されないのです。「毎日、任務をコツコツ頑張っている人たちを取り上げたいんですっ」と目を輝かせて訴えても「お前はバカか」と冷笑されるだけでしょう。

被災地に入って、泣いている人、怒っている人がいればそこだけクローズアップする、大変な境遇の人にわざわざインタビューする、そうしたことに対し「なぜそんなことをするのか」という視聴者の声も聞かれますが、悪気があるわけではなく、困っている状況だけを知らせて「体制批判をすることは正義」という考え方に基づいているのだと思います。

業界においては極めて普通のことであり、むしろ「みんなが笑顔で暮らしている日常を取り上げたい」とか「たまには政府を褒めてみよう」などと言ったらそれこそ「非常識な奴！」と謗られることでしょう。

近年はコンプライアンスも厳格になり、以前とは変わってきているかもしれませんが、こうした性質があることを知っていただくと、テレビに目くじらを立てることもなくなるのではないでしょうか…。

むしろ私たち視聴者はクールかつ多角的な視点で電波を受け止めなくてはならない（そもそも放送側も100％信じて欲しいわけではない）と思いますし、また報じられる内容からその裏にある「報じられていないこと」も見出す目を養いたいところです。

今年の元日に発生した能登半島地震の自衛隊による災害派遣活動は、5月も終わりに近づく現時点でもなお継続しています。しかし、インフラが回復せず困っている人々については報じられても、自衛隊がいつまでも活動していることは忘れられているようです。

大型連休には多くの人々が行楽や温泉を楽しんでいるのに、すぐそばで自衛隊が天幕を張って展開し、風呂を提供しているというのは極めて違和感のある光景だと私は思いますが、なぜどこも疑問視していないのでしょうか。

また、世界各地に広がっている反イスラエルのデモについても、正義感で立ち上がっているかのように映し出されていますが、昨年の10月7日に殺害されたイスラエルの人たちや、今も人質になっている人が100人以上いることについてはどう考えているのか。その人たちの無残な犠牲は致し方ないということなのでしょうか。

ここで思い出されるのは、冷戦期にNATOがミサイル配備を進めようとした際、欧州で平和運動や反核運動が起こり、そこには東側の工作員が存在していたという歴史です。

フロント組織を使って反戦運動を偽装するのですが、問題はそこに純粋な市民が集まってくることです。

考えてみれば、米国政府にイスラエル側への武器提供を止めさせる運動が高まれば誰に資することになるのか。それはロシア、中国、イランという国々に他なりません。その意味では、冷戦期と同じような情報戦が行われていると考えることもできます。

かつても、貧困のない世の中のため世界の平和のためと、自分たちと思って運動に熱をあげ、結果的に共産主義に与してしまった人々が数多くいました。その人たちは「デュープス（Dupes）」と呼ばれます。「お人よし」という意味です。

民主主義国家の政治体制に疑問を持たせ混乱させる、これは軍制国家による情報戦の常套手段です。その意味で戦争はすでに始まっているのです。

デュープスになってしまう可能性は誰もが持っています。そうならないために「このニュースや投稿で誰が得をするのか」というモノサシを必ず忘れずに情報に触れる、それが極めて大事なのです。

（執筆者プロフィール）
桜林 美佐（さくらばやし みさ）
東京都生まれ。日本大学芸術学部卒。ディレクターなどとしてテレビ番組制作に携わった後、防衛問題研究家に。
著書に「奇跡の船『宗谷』」「海をひらく 知られざる海自部隊」「誰も語らなかった防衛産業」（並木書房）、「終わらないラブレター 祖父母たちが語る『もう一つの戦争体験』」（PHP研究所）、「日本に自衛隊がいてよかった！ 自衛隊の東日本大震災」（産経新聞出版）、「ありがとう、金剛丸！ 生になった小さな自衛隊員」（ワニブックス）、「武器輸出だけでは防衛産業は守れない」「自衛隊と防衛産業」「自衛官が語る 災害派遣の記録（監修）」「自衛官が語る 海外活動の記録（監修）」（並木書房）、「本音の自衛隊（産経NF文庫）」「危機迫る日本の防衛産業（産経NF文庫）」など多数。

きずな

処遇改善

前運営委員 川又 弘道

「君は幾つも勲章を授与されているが副賞はどんなものだったのか」とマレーシア陸軍中将であるカールディンPKF司令官から問われたのは、2004年に私が第4次東ティモール派遣施設群長として国連の行事に制服で参加している時のことでした。

第2次世界大戦に敗戦した日本では、敗戦以前にあった武功抜群の軍人軍属に授与される金鵄（きんし）勲章（功一級から功七級の功級）が廃止され、自衛官がどんなに顕著な功績をあげても現職で叙勲されることは無くなりました。司令官が勲章と誤認したのは、自衛官の職務経歴、任務への従事、或は表彰を記念して制服に着用できる勲章の略綬（勲章のリボンを記章化したもの）と同一規格の防衛記念章です。14年からは防衛記念章にもメダルが制定されたので、自衛隊の式典などで勲章のようなものを胸に付けている自衛官を目にする機会が増えました。しかし勲章と防衛記念章は似て非なるものです。勲章は国家元首（天皇）から叙勲されるが、防衛記念章は防衛省の定める表彰権者から付与されるもので、企業でも広く行われている職場での表彰と変わりません。

さて、話は戻りますがPKF司令官は自身の胸に付けている略綬を一つ一つ指して「これはソマリアでの功績で一時金を得た。これはマラヤ共産ゲリラ掃討作戦で恩給が加算される、云々」と説明してくれた。自衛隊も一級賞詞の7万円から五級賞詞の2千円まで賞金、またはその範囲内で副賞を授与できるとされていますが、私はいただいたことはありません。

昨今、自衛官募集が厳しいこともあり、自衛官の処遇改善が以前にも増して叫ばれています。防衛予算もほぼ倍増され、自衛官の給与や各種手当ての増額や宿舎の無償化拡大などが検討されています。しかし処遇改善の視点が狭いと感じます。自衛官は任官に際し「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえる」と宣誓しており、次の2つの視点から処遇を考えるべきです。

第1は、国家に命を捧げることへの代償としての自衛官本人への処遇。第2は、自衛官が後顧に憂いなく任務にまい進できるようにするための家族への支援です。

前者は自衛官の地位・俸給、給与、福利厚生であり、米軍の手厚い福利厚生は有名ですが厳しい罰則（最高は死刑）とセットです。

後者は家族への福利厚生、特に自衛官が殉職した際の生活補償です。自衛官が殉職した際には賞恤金（しょうじゅつきん）や遺族厚生年金や遺族基礎年金の支給があるものの、基本的に他の公務員並びの域を越えません。

自衛官の処遇が公務員とさほど変わらないのは、自衛隊が軍隊ではないからと聞きます。一方で、政府は国会で「自衛隊は海外に出れば軍隊と見做される」と答弁しています。

この矛盾を解消しない限り、僅かの給与増額で募集が改善されるとは思えません。早急に自衛官の地位と俸給を適正にし、公務員とは一線を画した処遇の在り方が検討されることを望みます。